友の会だより

令和4年
3月
No.51

秋田県立博物館友の会　〒010-0124 秋田市金足鳥崎字後山 52　Tel 018-873-4121　Fax 018-873-4123　E-mail：info@akihaku.jp

令和３年度友の会活動報告

古文書整理ボランティア

最初に活動内容について説明します。毎月第二・第四水曜日の朝十時より午後四時迄、旧八沢木村にある波宇志別神社神主及び社家大頭を務めた、守屋家の古文書資料を解読・整理をする作業を進めています。

次に資料内容ですが、守屋造酒進を中心とする資料で、嘉永六年の神社屋敷焼失の後に、藩士大山家より養子となり、激動・混乱期の戊辰戦争を経て、明治維新後の県庁職員時代までの資料群となっています。祭礼関係を始め、公・私の書状、藩政、実家関係、軍事、土地関係等々種々多岐にわたっています。私的には、実家の弟さんの「江戸詰中の書状群」がお気に入りの一つです。(参勤交代時の先触役を勤めていて、当時の世相が分かり、大変興味深い。)

さて、入会後の感想ですが、前任の畑中先生や現新堀先生の懇切丁寧なご指導を頂き、また良き仲間に恵まれ、楽しく作業できる事に幸せを感じています。有難うございます。

最後に、それぞれの資料を繋ぎ合わせて、再構築すると、守屋さんが時代の波にもまれ、自分の置かれた境遇に悩みながらも、たくましく荒波を乗り越えてきた人物像が浮かび上がってきます。そこで、私達の御先祖様や歴史に興味がある方のご参加を願います。多くの方々とご一緒に、この学ぶ・知る喜びや感動を共有したいと思っています。

（古文書整理ボランティア　佐々木彦一郎）

守屋家資料を解読・整理（令和２年度の活動風景）

地質ボランティア

化石を採集するのはそれほど難しくない。ただクリーニングして名前を決めてやらないと標本（博物館資料）にはならず、それには膨大な手間と時間がかかる。博物館にたくさんある未処理の化石を標本に仕上げ、登録できるようにすることが私のボランティアの内容だ。いわば博物館の財産（県民の財産）を増やす活動である。

化石をクリーニングしていると時々思わぬ発見がある。以前、貝化石の入った砂の中から不思議な形の小さな化石が出てきたことがあった。いろいろ調べたが正体にたどり着けず、諦めかけたころネットで同じものを見かけた。ウニの中でもバフンウニなどのなかまの口に当たる器官（口器）を構成する部品の一つだったのだ。ウニには詳しくないので専門書に当たり、口器が５種類の部品（骨）からなることを知った。この知識を目に覚えこませ、同じ産地の砂を丹念に探した。何日もかかって骨が５種類全部揃った時には一人で喝采した。ウニの口器の化石の記録などこれまでほとんどなかったので、この発見を「研究報告」45 号に書かせてもらった。

口器の部品を探しているうちに殻の一部分や棘もかなりの数見つかり、合わせると 528 個にもなった。それらはすべて登録され、今は収蔵庫の一角に収まっている。「研究報告」でデビューしたこれらの資料に、またいつか出番が来るかもしれない。

（地質ボランティア　渡部　晟）

化石の同定・整理

スミレ会（植物標本整理ボランティア）

2021年度は、変異したデルタ株によるコロナ感染者増加のため、5月から11月末まで活動できませんでした。観察会も4月初めに男鹿市で主に春植物を見に出かけた1回のみでした。また、国立科学博物館が行っているS-Net（サイエンス ミュージアム ネット）への標本デジタルデータ提供も昨年度までは毎年1,500件を提出していましたが、200件だけでした。

2021年12月から行われる企画展「外来生物－運ばれる生き物たち－」の植物分野の展示品作製作業を「三密回避」しながら、培ってきた技術をいかしてお手伝いできたことはとても嬉しいことでした。在来植物と思われがちなものが意外にも外来植物であることを紹介するために多くの標本を作製しました。また大きな木製パネルにセイタカアワダチソウやオオアワダチソウ標本も貼付しました。両者とも北アメリカ原産で、日本には明治時代に園芸目的で持ち込まれましたが、逸出して日本全土に生育地を拡大し、秋田県内でも道路脇や空き地などで多く見られるようになった植物です。

12月には感染者数も減少し、全員元気に集合して「活動再開！」と喜んだのも束の間、新たなオミクロン株登場のため1月下旬より再度活動休止になりました。2022年度は通常の活動ができますように!!

（スミレ会　阿部裕紀子）

企画展に向けた植物標本の作製作業

古文書同好会

秋田古文書同好会では、昨年度に引き続き、三又村（湯沢市）茂木家資料のうち幕末から明治初期にかけての「日記帳」の解読に取り組みました。今年度はコロナ感染症流行のため、たびたび中止のやむなきに至ったのが残念です。例年博物館の研究報告に掲載してきた翻刻も、今年はお休みとなりました。幕末の元治2年に始まる「日記帳」ですが、慶応4年まで解読が進み、戊辰戦争の際に多数の家が焼かれたこと、村が多数の人馬、草鞋、松明などの負担を強いられたことなど、時代をものがたる貴重な記事が見受けられました。

（歴史部門　新堀道生）

茂木家資料を解読（令和２年度の活動風景）

考古ボランティア

毎月2回隔週の土曜日に開催しておりますが、コロナ禍のため活動は3回にとどまってしまいました。活動内容は次のとおりです。4/17・5/1一階収蔵庫の棚の付け替え、7/24カラムシの皮剥ぎ。特に博物館教室「土器作り教室」が中止となってしまい、ボランティアの皆様が活躍できる場を失ってしまったのは残念で仕方ありません。

来年度こそ、ボランティア活動が平穏無事に開催できますように！

（考古部門　加藤　竜）

友の会事務局担当より

令和3年度の活動も、新型コロナウイルスの影響で大幅に制限されてしまいました。そのような中、資料整理や展示準備にご尽力いただいた各部門のボランティアの皆様には、心より感謝申し上げます。

新年度には感染が収束して、安心して活動できるようになることを願っています。